

FUWARI

1.君が思い出になるなんて 知らなかったから
恋しくて 愛しくて
頭の中 君で染まっていた あの夏

ふわり ふわり ふわり ふわり

熱い思いが浮かんで来る それはある時突然に
声を聞きたくなるのは 弱いせいじゃないだろう

2.少し勇気が足りなくて 言葉にしなかった
一緒に いるだけで
わかりあえると 思い込んでた あの夏

ふわり ふわり ふわり ふわり

空に浮かんだ雲に書いた 君が大好きなんだよと
それじゃ届かないのを 大人になるまで知らなかった

ふわり ふわり ふわり

離れて行った気持ちと 気づけない僕の悲しみを
君は目映い光で 照らし続けてくれた

新しい恋を知ったけど 切り替わるんじゃない
また一つ また一つ
大切なもの 増やして行くよ ありがとう